
No.32 北海道士木技術会 会報 2006.11.15

ご挨拶

北海道士木技術会会長 西本 藤彦



会報32号の発行にあたり、ご挨拶を申し上げます。ひところよりわが国の経済はかなり好転し、ここ数年の実質経済成長率もプラスで推移しています。しかし、建設投資はずっと対前年度伸び率がマイナスで、2006年度の見通し額は1990年度の60%になろうとしています。北海道では、やはりこのような建設投資減少の影響が大きく、景気が好転しているとの実感は少ないのではないかと思います。

確かに従来のような形の建設事業がいつまでも続いていくものではないでしょうし、徐々に維持管理に重点が移行し、環境問題など今後さらに重要なと思われる課題に関係した事業が増えてくるでしょう。北海道で活動する私たちは、こうした変化に対応すべく、いっそ技術研鑽に励むことが求められていると思います。

いま巷間言われていることに、2007年問題というものがあります。これは団塊の世代といわれている方々が来年あたりから大量に退職するに伴い、彼らの有する技術がその所属組織から失われ、組織の継続性に問題を生ずるかも知れないということです。建設分野の技術は人の手による技能的側面も強いので、2007年問題は身近な問題といえます。多くの企業、組織で既に2007年問題を念頭に置いた技術の継承を心懸け、進めていることでしょう。建設分野における生き残りに欠かせないのは技術力向上であるという意見によく接しますが、技術の継承なくしては技術力向上もないのではと思います。

既にわが国は65歳以上の高齢者人口が20%を越えたそうですが、これからは益々シニア層の力が發揮されないと、世の中がうまく廻っていかないかもしれません。北海道士木技術会の7つの研究委員会活動の中でも、シニア層の経験と知恵を上手に利用させていただく活動が生まれてくることを期待したいところです。あわせて、産学官の研究者、技術者が連携して北海道の地域に根ざした土木技術の調査研究、普及に貢献するという北海道士木技術会の活動に、日頃より皆様の理解と協力をいただいていることに感謝申し上げます。

本部の活動報告

平成17年度の役員会が下記のように開催され、平成17年度の本部及び各研究委員会の活動報告並びに平成18年度事業計画、予算などが検討された。

日時：平成18年8月28日（月）15:30～16:30 会場：ホテルモントレ札幌

出席者 会長 西本藤彦（前田建設工業）

副会長 角田與史雄（ドーピー建設）

幹事長 西川純一（寒地土木研究所）

鋼道路橋研究委員会 幹事長 加藤静雄（ドーコン）

コンクリート研究委員会 幹事長 山口光男（ドーコン）

舗装研究委員会 委員長 笠原 篤（北海道工業大学）

幹事長代理 田中 勝（北海道舗装事業協会）

道路研究委員会 幹事長 浅野基樹（寒地土木研究所）

土質基礎研究委員会 委員長 三浦清一（北海道大学大学院） 幹事長 西本聰（寒地土木研究所）

建設マネジメント研究委員会 委員長 伊藤昌勝（ドーコン） 幹事長代理 金沢義輝（ドーコン）

オブザーバー 高木秀貴（寒地土木研究所）

1. 平成17年度事業報告

幹事会：平成17年7月21日

役員会：平成17年8月29日

土木の日パネル展2005 「安全と環境を支える土木技術」

平成17年11月5日～8日 さっぽろ地下街オーロラプラザ

会報31号発行 平成17年11月1日

北海道土木技術会ホームページの開設（平成17年11月10日）

平成17年度本部決算（別紙）

2. 平成18年度事業計画

幹事会：平成18年7月18日

役員会：平成18年8月28日

土木の日協賛行事 パネル展

平成18年11月12日～14日（さっぽろ地下街オーロラスクエア）

会報32号の発行

平成18年度本部予算（別紙）

3. 平成18年度役員（＊新任）

会長：西本 藤彦 前田建設工業（株）

副会長：角田與史雄 ドーピー建設工業（株）

〃：高木秀貴（＊） 寒地土木研究所

幹事長：西川 純一 寒地土木研究所

鋼道路橋研究委員会

委員長：林川 俊郎 北海道大学大学院

幹事長：加藤 静雄 （株）ドーコン

コンクリート研究委員会

委員長：大沼 博志 北海道大学大学院

幹事長：山口 光男 （株）ドーコン

舗装研究委員会

委員長:笠原 篤
幹事長:田高 淳

北海道工業大学
寒地土木研究所

トンネル研究委員会

委員長:三上 隆
幹事長:蟹江 俊仁

北海道大学大学院
北海道大学大学院

道路研究委員会

委員長:佐藤 馨一
幹事長:浅野 基樹

北海道大学大学院
寒地土木研究所

土質基礎研究委員会

委員長:三浦 清一
幹事長:西本 聰

北海道大学大学院
寒地土木研究所

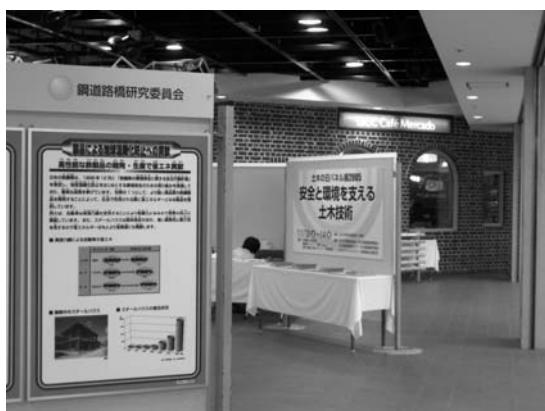
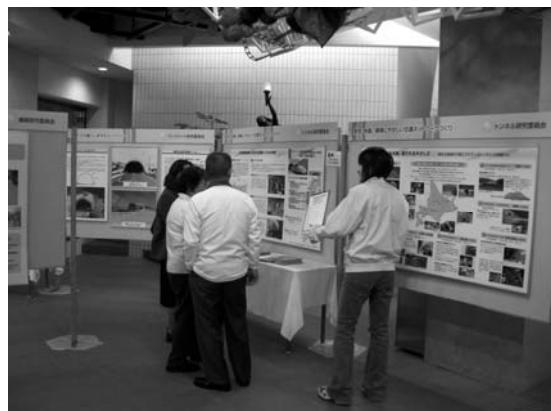
建設マネジメント研究委員会

委員長:伊藤 昌勝
幹事長:高野 伸栄

(株)ドーコン
北海道大学大学院

[昨年度の行事から] 土木の日パネル展2005 「安全と環境を支える土木技術」

昨年度の土木の日パネル展は、平成17年11月12日から3日間、さっぽろ地下街オーロラプラザで行われました。今回のテーマは「安全と環境を支える土木技術」で、例年のように7研究委員会が参加しました。以下に写真でようすを紹介します。



各研究委員会の活動報告

I. 鋼道路橋研究委員会(昭和 40 年 2 月設立 会員 355 名)

(委員長 林川 俊郎、副委員長 谷村 昌史、渡辺 直樹、幹事長 加藤 静雄、事務局長 菅原 登志也)

1. 平成 17 年度事業報告

1-1 情報小委員会(小委員長 当麻 庄司)

①鋼道路橋研究委員会 HP の運営(土木技術会 HP に移設、写真集第1~9集の更新)

②土木の日協賛パネル展(H17/11/12~11/14)札幌地下街オーロラプラザ

「安全と環境を支える土木技術」

1-2 設計仕様小委員会(小委員長 柳原 優登)

①性能照査規定、みなし仕様規定に関する情報収集

②「北海道における鋼道路橋の設計および施工指針」の今後の方針検討(6/14)

1-3 歴史・写真集小委員会(小委員長 近野 康彦)

①平成 15 年度~平成 16 年度までの完成橋梁の写真収集

②平成 17 年度分の鋼橋建設実績資料収集

1-4 講習・講演小委員会(小委員長 楓 力雄)

①小委員会活動計画(H17/12/16)

②技術講演会(H18/2/21 ホテルモントレ札幌 170 名参加)

・「レベル2地震動による落橋防止ケーブルの非線形強度」 (林川 委員長)

・複合ラーメン橋の今後の展望 (日本橋梁建設協会 古田 氏)

・合成床版の最近の動向—合成床版の施工・維持管理 (日本橋梁建設協会 橋 氏)

・コンクリートを充填した長大アーチ橋の新技術 (日本橋梁建設協会 吉村 氏)

・新しい鋼橋の誕生Ⅱ (日本橋梁建設協会 若林 氏)

1-5 振動小委員会(小委員長 林川 俊郎)

① 講演会&パネルディスカッションの開催(H17/9/22 教育文化会館 72 名参加)

・「地震と地下構造物 一メキシコ・阪神・中越・スマトラ地震を経て今後の課題ー」、

・パネルディスカッション「実務者からみた地震と構造物設計」

コーディネーター;林川委員長、パネラー;ドーコン@川北氏、開発工営社@松井氏、日水コン@竹内氏

② 勉強会(12/16) 「美原大橋耐風問題」 開土研 三田村氏

「橋梁交通振動の計測に関する話題提供」 エーティック 共 氏

③ 勉強会(5/16) 「柔らかい地盤と橋梁の共振」 長大 高畠氏

「石狩河口橋の固有振動特性評価」 構研 E 京田氏

1-6 技術調査小委員会(小委員長 石川 博之)

① 勉強会(11/9)

・「耐候性鋼橋梁の現状と今後の課題」 日本橋梁建設協会 山本氏

・「道路橋耐風設計便覧改訂の背景と変更点」日本橋梁建設協会 宮崎氏

② 小委員会(H18/4/28) 活動方針の検討

1-7 維持管理小委員会(谷本 俊充)

① 勉強会(H18/5/18)

・「鋼橋の防錆」 フジエンジニアリング 枝本氏

・「橋梁維持管理」 橋梁メンテナンス 岡本氏

1-8 性能設計研究部会(部会長 杉本 博之)

① 研究部会(5回の研究部会を開催)

- ・H17/11/17 4WG(WG1 床版、WG2 維持補修、WG3 LCC、WG4 性能照査システム)の活動報告と取りまとめ方針の検討
- ・H18/1/12 各 WG の報告書のドラフトと内容に関する検討
- ・H18/3/6 報告書の全体構成に関する検討
- ・H18/4/17 報告書の内容に関する検討
- ・H18/5/8 報告書の取りまとめと今後の活動方針の検討

H18 以降は小委員会として活動したい

2. 平成 18 年度事業計画

2-1 情報小委員会(小委員長 当麻 庄司)

- ① 鋼道路橋研究委員会 HP の運営(HP に写真集第 10 集を追加、講演会資料等の掲載)
- ② 鋼橋に関する情報収集を行い、検討会を行う。

2-2 設計仕様小委員会(小委員長 谷村 昌史)

- ①「北海道における鋼道路橋の設計および施工指針」の今後のあり方の検討
- ②鋼道路橋の基準改訂に関する情報収集
- ③会員の要望を把握し、小委員会活動に反映させる。

2-3 歴史・写真集小委員会(小委員長 近野 康彦)

- ①平成 16 年度～平成 17 年度までの完成橋梁の写真収集
- ②平成 18 年度分の鋼橋建設実績資料収集

2-4 講習・講演小委員会(小委員長 野村 光博)

技術講演会、映画会、現場見学会を開催する。

2-5 振動小委員会(小委員長 林川 俊郎)

鋼橋の振動問題(交通振動、耐風、耐震)に関する資料収集、勉強会を開催し、報告書としての取りまとめを検討する。

2-6 技術調査小委員会(小委員長 石川 博之)

鋼橋に関する規定、新技術の調査を行い、情報の蓄積を図る。

2-7 維持管理小委員会(小野 敏博)

鋼橋維持管理に関する資料収集を行い、報告書としての取りまとめを検討する。

2-8 性能設計小委員会(部会長 杉本 博之)

- ①H15 以降の活動を報告書として取りまとめる。取りまとめは以下の基本構成とする。

第1編 性能設計と公共事業システム

第2編 性能設計と橋梁構造物の維持管理システム

2-1 積雪寒冷地における RC 床版の性能設計

2-2 性能設計体系における補修補強工法

- ②報告書の取りまとめ後、以下の勉強会と普及活動を行う。

(1) 床版防水工の効果

(2) ライフサイクルコスト(LCC)

II. コンクリート研究委員会(昭和 31 年 6 月設立 会員 261 名)

(委員長 大沼博志、副委員長 桜田昌之、下出育生、事務局長 山口光男)

1. 平成 17 年度事業報告

1-1 技術情報小委員会(小委員長 松本雅利)

- ①見学会の実施(H17/09/15) 参加者 41 名 「徳富ダム建設工事、旭川鉄道高架事業」
- ②土木の日協賛パネル展(H17/11/12~11/14) 札幌地下街オーロラプラザ
「安全と環境を支える土木技術」——サブテーマ「わたしたちの暮らしを守るコンクリート」 展示パネル 3 枚
- ③後援した講演会(3件)
 - ③-1 「自然環境とコンクリート性能評価」(H17/09/30、JCI 北海道支部)
 - ③-2 「大学から実務者へ～技術情報の発信と情報交換」(H17/11/09、JCI 北海道支部)
 - ③-3 「公共工事における第三者機構の役割」(H17/11/14 HITEST)

1-2 国際交流小委員会(小委員長 花田真吉)

- ①第8回日韓構造材料シンポジウム支援(H17/08/02~08/04、北海道大学大学院、30 名)
- ②平成 18 年度国際交流に係わる「学生・国際会議助成」の募集
 - 学術交流Aに 2 件の応募があり、承認された
 - ・松本浩嗣(北大、上田教授)「第 2 回アジアコンクリート連合会議」(インドネシア)
 - ・中村拓郎(北大 堀口教授)「第 6 回セメントとコンクリートの国際シンポ」(中国)

1-3 コンクリート先端技術教育小委員会(小委員長 山口光男)

- ①PC技術あるいはPCの新技術を本会員及び将来を担う学生に広く行き渡ることを目的として、道内 5 大学並びに2高専においてPCセミナーを実施。
- ②プレストレスコンクリートの概要／北海道のコンクリート橋／PC技術を用いた構造物／社会人としての談話など

1-4 インターネット小委員会(小委員長 志村和紀)

- ①新しいHPについて H18/04/15 公開
- ②掲載内容 委員会の概要／委員会の組織／北海道のコンクリート構造物／活動内容／発行書籍／リンク集など

1-5 コンクリート橋小委員会(小委員長 谷村昌史)

- ①「北海道のコンクリート橋写真集」第 5 集の発刊について
選定した 78 橋の内訳
 - 工事概要・写真・一般図 —— 士狩大橋ほか 5 橋
 - 写真・一般図 —— 星の降る里大橋ほか 25 橋
 - 写真のみ —— 新愛別橋ほか 45 橋

1-6 設計仕様小委員会(小委員長 谷村昌史)

- ①見学会の実施(H17/08/31) 参加者 28 名 「積丹半島のPC橋梁、大森トンネル」
- ②「緊急輸送路の橋梁耐震補強 3 箇年プログラム」についての意見交換、設計方法の検討

1-7 コンクリート防災施設研究小委員会(小委員長 近野康彦)

PCスノーシェルターの部分改良について資料作成

1-8 CLSM普及検討小委員会(小委員長 堀口 敬)

- ①CLSM技術マニュアル[第一版]の作成

②技術講習会の開催(H18/08)

③本委員会は平成 17 年度で終了する

1-9 水辺のコンクリート性能調査研究小委員会(小委員長 堀口 敬)

①北海道内で施工されている水辺のポーラスコンクリート構造物の透水性能、強度特性、耐凍害性、植生などの性能追跡調査

②委員会活動報告書を作成し、講習会を開催予定(H18/08)

③本委員会は平成 17 年度で終了する

1-10 沿岸の環境保全コンクリート研究小委員会(小委員長 佐伯 昇)

①磯やけ(砂漠化)、赤潮対策など沿岸の環境保全を目的として、コンクリート製試験礁を 2 箇所に設置し、水質、流速などの追跡調査を実施

②臼谷漁港、別荘海域での試験施工、追跡調査の結果の取りまとめ

③土木学会3種委員会として、11 月に講習会予定

1-11 コンクリート維持管理小委員会(小委員長 谷村昌史)

①「北海道におけるコンクリート構造物維持管理の手引き(案)」の作成と講習会の実施
(H18/04/26 札幌コンベンションセンター 参加者:155 名)

②橋梁マネジメント現場技術セミナーへの参加

(H18/10/5 北海道開発土木研究所 受講者:46 名)

③平成 18 年度は常設の委員会として活動する

1-12 コンクリートダムの歴史研究小委員会(小委員長 大沼博志)

①北海道のダム高 15m 以上のコンクリートダム 72 箇所について基礎データを取り纏める

②「北海道のコンクリートダム基礎資料」を基に歴史書を作成する

③平成 18 年度中の完成を目指し、作業分担を決める

2. 平成 18 年度事業計画

「都市型廃棄物利用CLSM小委員会」の設置について

北海道を出発点とした下水汚泥焼却灰を活用した CLSM の開発と有効利用活動を行う。

委員長:堀口 敬(北海道大学大学院)

1 運営に関する委員会(常設)	
企画小委員会	・委員会活動活性化に向けた企画 ・講演会、見学会、土木の日協賛事業の企画
技術情報小委員会	・講演会、見学会、土木の日協賛事業の運営
国際交流小委員会	・国際交流の促進事業の運営
コンクリート先端技術教育小委員会	・PCセミナーの実施(5大学、2高専)
インターネット小委員会	・コンクリート研究委員会HPの維持管理、更新
2 コンクリート技術に関する委員会(常設)	
コンクリート橋小委員会	・「北海道のコンクリート橋」第5集の発刊

設計仕様小委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・見学会、新技術に関する講習会の企画 見学会:函館方面(高架橋、新幹線トンネル他)6/30～7/01 ・新技術WG活動
コンクリート防災施設小委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・PC道路防災構造物マニュアルの維持管理 ・PCスノーシェルターの部分改良 「一部のプレグラウト鋼材に硬化時間等に問題が発生したため実験による確認を行い、適切な材料を選定する」 ・性能照査型設計法への移行に向けての資料収集
コンクリート維持管理小委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・「北海道におけるコンクリート構造物の維持管理の手引き」の維持・更新、Q&Aの作成など ・見学会、新技術に関する講習会の企画など ・特定テーマについての研究活動

3 コンクリート技術に関する委員会(期間限定)

沿岸の環境保全小委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・土木学会第3種委員会との共同活動 ・試験施工(別荘海域、臼谷漁港)の経過観察、追跡調査 ・講習会の開催(時期未定)
コンクリートダムの歴史研究小委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・「北海道のコンクリートダムの歴史」発刊作業
都市型廃棄物利用 CLSM小委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道汚泥焼却灰を活用した CLSM の開発

* 平成 17 年度で終了した、①水辺のコンクリート性能調査②CLSM 普及検討は平成 18 年夏を目処に講習会を開催する。

III. 舗装研究委員会(昭和 55 年 5 月設立、委員数 126 名)

(委員長 笠原 篤、副委員長 弓削富司夫、幹事長 田高 淳、事務局長 田中 勝)

1. 平成 17 年度事業報告

1-1 幹事会

- 1) 第 1 回 平成 17 年 4 月 27 日(水) 出席者 17 名
 - (1) 各小委員会の委員の交代について
 - (2) 第 25 回通常総会議案書作成について
- 2) 第 2 回 平成 17 年 7 月 11 日(月) 出席者 12 名
 - (1) 平成 17 年度の各小委員会の活動計画について
 - (2) 新委員の配属について
- 3) 第 3 回 平成 17 年 9 月 12 日(月) 出席者 15 名
 - (1) 役員の変更について
 - (2) 土木技術会役員会の報告について
 - (3) 各小委員会の活動予定について
 - (4) 土木の日について
- 4) 第 4 回 平成 17 年 11 月 7 日(月) 出席者 14 名
 - (1) 舗装技術国際会議(ICPT)の紹介
 - (2) 各小委員会の活動報告について
 - (3) 土木の日について
 - (4) 舗装研究委員会設立 25 周年記念海外研修旅行について
- 5) 第 5 回 平成 17 年 12 月 5 日(月) 出席者 11 名
 - (1) 舗装研究委員会設立 25 周年記念海外研修旅行について
 - (2) 舗装講演会について
 - (3) 各小委員会の活動報告について
 - (4) 土木の日パネル展示会の報告について
- 6) 第 6 回 平成 18 年 1 月 20 日(金) 出席者 14 名
 - (1) 舗装研究委員会設立 25 周年記念海外研修旅行について
 - (2) 舗装講演会について
 - (3) 各小委員会の活動報告について

1-2 小委員会活動

- 1) 技術基準小委員会(小委員長 岳本秀人・田高 淳、副小委員長 京田 隆一、山本健一)
 - (1) 北海道の密粒アスコン及び排水性舗装の取り扱い変更や、東日本高速道路(株)の舗装施工管理要領改正を報告し意見交換を行った。
 - (2) 舗装性能評価に係わる取り組み状況や課題を報告し意見交換を行った。
 - (3) 会議

第1回小委員会 平成 17 年 10 月 21 日(金) 第2回小委員会 平成 18 年 4 月 7 日(金)

- 2) 講演講習小委員会(小委員長 中井 秀実、副小委員長 亀山修一、飯田 誠)
 - (1) 「土木の日」パネル展の実施

平成 17 年 11 月 12 日(土) ~ 11 月 14 日(月) 3 日間

札幌地下街オーロラタウン・オーロラプラザにて開催

北海道土木技術会 メインテーマ『安全と環境を支える土木技術』

舗装研究委員会サブテーマ『舗装技術は環境にやさしく、安全な「道」をお届けします』

- (2) 「舗装研究委員会設立 25 周年記念講演会」開催

平成 18 年 2 月 21 日(火) 北海道大学学術交流会館 参加人員 約 90 名

講師 北電(株)京極水力発電所 次長 高野 準

(独) 日本高速道路保有債務返済機構 企画部長 菊川 滋

- (3) 「道路技術講演会」開催(旧北海道開発土木研究所共催)

平成 18 年 3 月 27 日(月) 旧北海道開発土木研究所 研修室 参加人員 約 90 名

講師 中国華南理工大学 道路工程研究所長 張 肖寧

- 3) 技術史料収集小委員会(小委員長 山口守之、副小委員長 阿部 徹、熊谷敏雄)
(1) 前年度に引き続き収集班による資史料収集、整理班による資史料の電子化作業を行った。
(2) 会議
 第1回小委員会 平成17年7月20日(水) 第2回小委員会 平成17年8月4日(木)
 第3回小委員会 平成17年8月26日(金) 第4回小委員会 平成17年9月7日(水)
- 4) 路面対策小委員会(小委員長 渡邊 直樹、副小委員長 佐藤 巍、西田健一)
(1) 適切な除雪マネジメント因子を特定化するため、相関が強いと思われる因子について調査し、分析評価を行った。
(2) 凍結路面対策の手引きを作成するために資料を収集し、原稿素案を作成した。
- 5) 舗装マネジメントシステム小委員会(小委員長 川村 彰、副小委員長 弓削 富司夫、石田 樹)
(1) 舗装マネジメントシステムに関する各機関の取り組み紹介、研究内容の情報交換・意見交換を実施した。
 - ・ 路面凹凸検出方法の基礎的研究
 - ・ 改質II型アスファルトによるLCC縮減
 - ・ 舗装マネジメント支援サブシステムの開発
 - ・ HDM-4 ver.2機能紹介
 - ・ 諸外国のPMS
(2) 会議
 第1回小委員会 平成17年12月9日(金) 第2回小委員会 平成18年5月26日(金)

2. 平成18年度事業計画

本年度は、下記事業計画に基づき5つの小委員会の活発な活動を中心に事業の推進を図る。

- 1) 技術基準小委員会(小委員長 田高 淳、副小委員長 京田 隆一、山本 健一)
(1) 性能指標など「舗装の構造に関する技術基準」に基づく工事発注に伴う諸問題及び共通仕様書記載内容などに関する意見・要望について検討を行う。
(2) 舗装構造設計、排水性舗装の機能の持続性向上、凍結抑制舗装の評価法及び表層用採石マスチックアスファルト混合物の使用など、寒冷地舗装の技術的課題について検討する。
(3) 舗装維持修繕に関する設計及び工法に関する技術的検討を行う。
- 2) 講演講習小委員会(小委員長 中井 秀実、副小委員長 飯田 誠、亀山修一)
(1) 海外・国内の舗装技術及び研究成果に関する各種講演講習会の開催。
(2) 「土木の日」土木技術会協賛事業パネル展への参加。
(3) 舗装研究委員会発行関連出版物の販売促進。
- 3) 技術史料収集小委員会(小委員長 阿部 徹、副小委員長 熊谷敏雄、佐々木俊彦)
 収集グループにより資・史料収集を行い、整理グループはこれら資・史料の電子化作業を行う。
- 4) 路面対策小委員会(小委員長 渡邊 直樹、副小委員長 佐藤 巍、池田 雄)
(1) 17年度の調査結果を分析評価し、除雪と便益についてまとめる。
(2) 凍結路面対策の手引きを舗装研究委員会としてまとめ、印刷物として発刊する。
- 5) 舗装マネジメントシステム小委員会
 (小委員長 川村 彰、副小委員長 弓削 富司夫、石田 樹)
(1) 舗装マネジメントシステムに関する各機関の取り組み状況等の報告、意見交換を行う。
(2) 舗装マネジメントに関する技術の普及活動を行う。

IV. トンネル研究委員会(昭和 60 年 11 月設立 会員 263 名)

(委員長 三上 隆、副委員長 桜田 昌之、下出 育生、高倉 清、幹事長 蟹江 俊仁、
事務局長 尾上 祐之)

1. 平成 17 年度事業報告

1-1 技術小委員会

1) TMS 分科会

(1) トンネルのロングライフ化に関する研究

・既設トンネルの耐久性に関する調査

(2) 内部断熱材厚の算定式検証

・坑口・坑内気温推定式(実用式)の検証 •新設計指針(案)原稿作成

(3) 新素材断熱材(代替フロン・ノンフロン)実試験の調査

・資料収集

2) NATM 分科会

(1) ACOS データの活用方法に関する検討

・データ自体の問題点抽出 •将来へ向けての見直しについての検討

(2) 有害物質の処理方法に関する調査

・収集文献の資料整理・とりまとめ •トンネルづくり処理方法に関する資料収集

(3) 繊維補強コンクリート覆工に関する調査

・文献等の資料整理・とりまとめ •アンケート調査準備

3) トンネル 21 分科会

(1) トンネル新技术・新工法の紹介(トンネル会報 No.39)

・トンネルバルーン

・道路トンネル第三集 会報 27~39 号 再掲載 NETIS 登録済新技术の紹介

(2) 『北海道の道路トンネル(第3集)』の発刊 1993~2002 2006 年 1 月発送

(3) 新技術開発・新型機械の調査 調査中(NETIS 等で検索)

4) 会議等

(1) 小委員会 : 1 回

(2) TMS 分科会 : 1 回

(3) NATM 分科会 : 1 回

(4) トンネル 21 分科会 : 1 回 (5) 第3集編集委員会 : 4 回 (6) 活動報告会 : 1 回

1-2 講習講演小委員会

1) 現地見学会

・日 時 : 平成 17 年 10 月 7 日(金) •参加者数 : 66 名

・場 所 : 北海道横断自動車道 占冠トンネル西工事(本坑・避難坑)

* 避難坑・本坑の同時掘削(レール工法・タイヤ工法)

* 小断面トンネルにおける遠心力吹付材施工

* メタンガス対策

2) 土木の日

・日時 : 平成 17 年 11 月 12 日(土)~14 日(月)

・場所 : 札幌地下街オーロラプラザ

・テーマ : 「安全と環境を支える土木技術」 (北海道土木技術会7研究委員会合同)

3) 2006 トンネル技術の特別講演と技術研究発表会

・日時 : 平成 18 年 2 月 24 日(金)10:00~17:30 •場所 : 北海道大学学術交流会館

*特別講演Ⅰ：「トンネル技術の現状と課題」

首都大学東京 都市環境学部 都市基盤環境コース 教授 西村 和夫

*特別講演Ⅱ「中国における道路トンネルについて」

長安大学公路学院 助教授 Jianxun Chen

*研究発表：7編(全て公募)

*参加人数：発表会 275名 20周年祝賀会 115名(実績数)

4)会議

(1)小委員会：3回 (2)幹事会：2回

1-3 地方小委員会

1)札幌地区委員会

日時：平成17年11月21日(月) 内容：現場見学会、一般国道231号太島内2号トンネル、
勉強会「火薬自動装てんシステム」、「ロックボルト長さ測定」、38名

2)小樽地区委員会：

日時：平成17年10月21日(金)
内容：現地見学会、一般国道229号泊村ほりかっぷトンネル補修工事、37名

3)函館地区委員会：

日時：平成17年10月18日(火) 内容：現場見学会、一般国道230号豊浦町青葉トンネル(仮称) 34名
日時：平成18年2月9日(木) 内容：函館地区トンネル委員会総会、36名

4)室蘭地区委員会：

日時：平成17年10月21日(金) 内容：室蘭地区 トンネルの勉強会「トンネル新技術」、41名
(1)トンネル新技術について、(2)吹付けコンクリートでの液体急結剤の適用について、
(3)トンネル研究委員会活動状況について、(4)施工報告「青葉トンネルの施工状況」

5)旭川・稚内・留萌・網走地区委員会：

日時：平成17年10月27,28日(木、金)
内容：研修会、41名 「吹付けコンクリートでの液体急結剤の適用」、「二次覆工に関する最近の話題」
現地見学会、上越トンネル、40名

6)帶広・釧路地区委員会：

日時：平成17年10月21日(金)
内容：研修会、29名 (1)北海道における地質構造と地質図の見方、(2)NATMについて、
(3)コンクリートの診断技術と補修・補強技術、(4)新潟中越地震における補修・補強工法の実例

7)事務局会議：

日時：平成17年5月23日(月)、内容：平成17年度活動方針の確認及び、各地区行事予定の説明
日時：平成17年10月18日(火)、内容：函館地区小委員会の青葉トンネル見学会後、各地区委員による
意見交換、10名(各地区委員長+函館地区幹事数名)

1-4 事務局

- 1) 出納事務
- 2) 会報編集・発行 会報第39号(平成17年7月)、第40号(平成18年3月)の編集・発行
- 3) 常任委員会 平成16年6月16日(木) 総会議事の承認について等、於 センチュリーロイヤルホテル
平成18年1月24日(火) 技術研究発表会、贊助会員の入退会について等
於 アスペンホテル
- 4) 定期総会 平成17年6月24日(金) 於 センチュリーロイヤルホテル

- 5) 企画運営会議 平成 17 年 12 月 22 日(木)技術研究発表会、20 周年記念祝賀会について等
於 KKR 札幌
- 6) ホームページ開設・管理 アドレス <http://www.ejsd.net/tunnel/>
- 7) 20 周年記念事業 「20 年のあゆみ」編集・発行

2. 平成 18 年度事業計画

2-1 技術小委員会

1) TMS 分科会

- (1) トンネルのロングライフ化に関する研究(継続)
 - ・劣化状況の把握及び検討
- (2) 内部断熱材厚の算定式検証(継続)
 - ・新設計指針(案)の検証(問題点の抽出)
- (3) 新素材断熱材(代替フロン・ノンフロン)実試験の調査(継続)
 - ・性状調査(実験)に関する試験方法検討及び実施場所の選定

2) NATM 分科会

- (1) トンネル管理システム再構築に関する検討(変更・継続)
 - ・データベース項目の検討
 - ・再構築の方向性・検討
- (2) 繊維補強コンクリート覆工に関する調査(継続)
 - ・アンケート調査実施・とりまとめ
- (3) 道内トンネルの技術的変遷(新テーマ)
 - ・長大トンネル・難工事等の記録調査
 - ・道内のトンネル技術の変遷

3) トンネル 21 分科会

- (1) トンネル新技術・新工法の紹介(継続)
 - ・新技術・新工法、新技術開発・新型機械の新アンケート調査
 - ・項目検討・実施・分析・公開
 - ・トンネル会報の No.41,42 号に掲載予定
- (2) 北海道の道路トンネル(第4集 2003~)準備(変更・継続)
 - ・第3集データ・作業プロセス整理
 - ・第4集データ作成依頼・集積・保管

4) 会議等

- (1) 小委員会 : 1 回
- (2) TMS 分科会 : 2 回予定
- (3) NATM 分科会 : 2 回予定
- (4) トンネル 21 分科会 : 2 回予定
- (5) 活動報告会 : 1 回

2-2 講習講演小委員会

- 1) 現地見学会 : 未定(道内を予定)
- 2) 土木の日 : 日時・場所・内容は未定
- 3) 2007 トンネル技術研究発表会

日時:平成 19 年 2 月 23 日(金)10:00~17:00 場所:北海道大学学術交流会館

4) 委員会活動

- (1) 小委員会 : 4 回
- (2) 幹事会 : 2 回

2-3 地方小委員会

1) 札幌地区委員会 ;

日時:平成 18 年 10 月中旬

内容:① トンネル施工現場見学会の開催(現場未定)、② トンネル新技術等勉強会

2) 小樽地区委員会；

日時；平成 18 年 9 月頃

内容；現場見学会、「一般国道 229 号岩内町弁慶トンネル」

勉強会 「北海道における地質構造と地質図の見方」

3) 函館地区委員会；

日時；平成 18 年 10 月頃

内容；現場見学会

日時；平成 19 年 2 月頃

内容；函館地区トンネル委員会総会「総会並びに現場報告」

4) 室蘭地区委員会；

日時；平成 18 年 10 月 27 日

内容；青葉トンネル見学会

5) 旭川・稚内・留萌・網走地区委員会；

日時；平成 18 年 10 月頃

内容；現地見学会と勉強会

6) 帯広・釧路地区委員会；

日時；平成 18 年 10 月頃

内容；現場見学会「新直轄 本別～釧路間のトンネル現場」

7) 企画会議、事務局会議；適宜

日時；平成 18 年 6 月 16 日（金）

内容；今年度活動方針の確認及び、各地区行事予定の説明

日時；平成 18 年 9 月頃、

内容；各地区の行事案内及び意見交換等

日時；平成 19 年 2 月初旬頃、

内容；各地区行事内容の総括及び情報交換等

2-4 事務局

1) 会報編集・発行 施工中のトンネルリストの作成、会報第 41, 42 号の編集・発行

2) 出納事務

3) 常任委員会 2 回予定

4) 定期総会

5) 企画運営会議 1 回予定

6) ホームページ管理

7) その他 事業計画外の対応、等

V. 道路研究委員会(昭和 29 年 6 月設立 個人会員 55 名、賛助会員 91 社)

(委員長 佐藤 錦一、副委員長 佐藤昌志、高橋 勉、幹事長 浅野基樹、事務局長 太田祐司)

1. 平成 17 年度事業報告

1-1 調査研究

以下の調査研究成果を賛助会員に配布

- 1)『独立行政法人北海道開発土木研究所道路部研究成果』
- 2)冬期路面管理技術WG:『摩擦係数に基づいた冬期路面管理に関する研究』報告書
- 3)交通事故分析WG:『情報提供方法による山間部カーブ区間の重大事故防止に関する研究』
『道路付属物の霧発生時の視認性に関する研究』

1-2 講習・講演会

- 1)講演会『新たな交通環境の創造に向けた取り組み』

・日 時:平成 17 年 6 月 22 日(水) 参加者:57 名
・場 所:札幌ステーションホテル
・主 催:北海道土木技術会 道路研究委員会

- (1)講演『シームレスな交通環境の実現に向けて』

講演者:国土交通省鉄道局企画室長 鈴木 昭久氏

- (2)講演『札幌カーシェリング特区について』

講演者:須賀原自動車工業社長 須賀原 信広氏

- 2)講演会『ワーストワン返上の理由～なぜ減ったか北海道の交通事故死者数』

・日 時:平成 17 年 12 月 12 日(月) 参加者:89 名
・場 所:札幌ガーデンパレス
・主 催:北海道土木技術会道路研究委員会
・共 催:(独)北海道開発土木研究所

- (1)講 演『交通死亡者が 7,358 人に減少した要因について』

講演者:(財)交通事故総合分析センター 萩田 賢司氏

- (2)講 演『北海道の交通事故死者数の現状について』

講演者:北海道警察本部交通部交通企画課 千葉 貴寿氏

- (3)講 演『北海道の交通事故死者数の減少要因について』

講演者:北海道大学大学院工学研究科助教授 萩原 亨氏

- (4)講 演『一般国道における交通事故対策について』

講演者:北海道開発局道路維持課課長補佐 柴田 哲史氏

- (5)講 演『死亡者減少要因調査とランブルストリップスの効果について』

講演者:(独)北海道開発土木研究所交通研究室室長 浅野 基樹氏

- (6)講 演『保険実務からみた死亡事故』

講演者:東京海上日動火災保険(株)課長 飯田 芳久氏

- 3)講演会『冬期道路マネジメント』

・日 時:平成 18 年 2 月 21 日(火) 参加者:60 名
・場 所:(独)北海道開発土木研究所 講堂
・主 催:(独)北海道開発土木研究所交通研究室
・共 催:北海道土木技術会 道路研究委員会

(1) 基調講演『脱スパイクタイヤ政策の政策評価について』

講演者:(独)北海道開発土木研究所交通研究室室長 浅野 基樹氏

(2) 講 演『雪みちプロジェクトについて』

講演者:北海道開発局道路計画課開発専門官 田村 圭一氏

4) 講演会『エコロジカルフットプリント』

・日 時:平成 18 年 3 月 2 日(木) 参加者:48 名

・場 所:札幌教育文化会館

・主 催:(社)北海道開発技術センター

・共 催:北海道土木技術会道路研究委員会

講 演『エコロジカルフットプリント』

講演者:岡山大学大学院環境学研究課 谷口 守氏

5) 講演会『広島都市圏のみちづくりまちづくり』

・日 時:平成 18 年 3 月 14 日(月) 参加者:44 名

・場 所:京王プラザホテル

・主 催:(社)北海道開発技術センター

・共 催:北海道土木技術会道路研究委員会

講 演『広島都市圏のみちづくりまちづくり』

講演者:国土交通省中国地方整備局広島国道所長 上田 敏氏

1-3 定期総会

日 時:平成 17 年 6 月 22 日(水) 14:50~15:30

場 所:札幌ステーションホテル

議 題:平成 16 年度活動報告／平成 16 年度収支報告・会計監査報告／

平成 17 年度活動計画／平成 17 年度予算案

1-4 委員会等

1) 委員会(平成 17 年 6 月 22 日(水) 14:00~14:40) 札幌ステーションホテル

2) 幹事会 計3回開催

1-5 “土木の日” 協賛事業

1) 開催日程 : 平成 17 年 11 月 12 日 (土) ~14 日 (月)

2) 場所 : さっぽろ地下街オーロラプラザ

3) 主催 : 北海道土木技術会 鋼道路橋・コンクリート・舗装・

トンネル・道路・土質基礎・建設マネジメントの7研究委員会

4) テーマ :『安全と環境を支える土木技術』

5) 全体幹事会: 平成 17 年 9 月 9 日(金)

6) 展示・配布資料・イベント概要

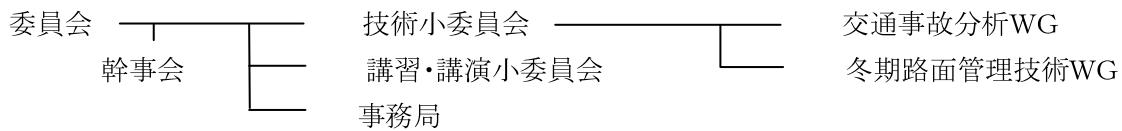
・土木技術会全体リーフレット作成、パネルクイズの実施(7研究委員会合同)

7) 出展会員と展示品

出展会員	展示品
アサヒ建設コンサルタント	・パネル、展示物(木製雪崩防護柵)
エーティック	・パネル(道路環境調査・道路構造物診断技術)
明星電気	・パネル(道路用視程計、道路気象観測システム)
天商	・パネル(セーフティアンチヒートブロック外)

2. 平成18年度事業計画

2-1 組織



2-2 調査研究

1) 交通事故分析WG

・まとめ役: 北海道大学大学院工学研究科 萩原 享氏

<テーマ> 「北海道における交通事故分析 一道路改良効果の算出ー」

2) 冬期路面管理技術WG

・まとめ役: 北海道大学大学院工学研究科 助教授 中辻 隆氏

<テーマ> 「雪氷路面の定量評価に関する調査研究」

2-3 講習・講演会

・まとめ役: (社)北海道開発技術センター 原 文宏氏

□小委員会メンバー: 北海道大学大学院助教授 萩原 亨氏

(独)北海道開発土木研究所 浅野 基樹氏

(株)ドーコン交通部 小林 正明氏

□年間計画 年4回程度の講習・講演会開催予定

2-4 “土木の日”協賛事業

・まとめ役: (株)ドーコン交通部 内藤 利幸氏

VII. 土質基礎研究委員会(昭和 40 年 1 月設立 会員 372 名)

(委員長 三浦清一、副委員長 西川純一、武田 覚、田中洋行、幹事長 西本 聰、事務局長 林 啓二)

1. 平成 17 年度事業報告

1-1 事業小委員会(小委員長 武田 覚、幹事 峯田一彦)

1) 講演会(平成 17 年 6 月 13 日、ホテルポールスター札幌、参加人数 102 名): 主催

『道央自動車道(札幌~岩見沢)の軟弱地盤技術 —— 供用 20 年目の検証——』

株式会社オーデックス 代表取締役社長 栗原則夫 氏

2) 講習会(平成 17 年 6 月 20 日、北見工業大学、参加人数 80 名): 主催

(合同主催: 社団法人地盤工学会北海道支部)

『ジオテクノート⑭「泥炭のお話し」講習会』

3) 講習会(平成 17 年 10 月 7 日、釧路プリンスホテル、参加人数 78 名): 主催

(合同主催: 社団法人地盤工学会北海道支部、共催: 釧路測量設計協会技術検討委員会)

『ジオテクノート⑭「泥炭のお話し」講習会』

4) 土木の日パネル展(平成 17 年 11 月 12 日~14 日、札幌地下街オーロラプラザ)

5) 講習会(平成 17 年 11 月 17 日、KKR ホテル札幌、参加人数 68 名): 主催

『グラウト工法による液状化および排泥対策と植生導入を可能にした土壤改良剤』

1-2 技術小委員会(小委員長 神谷光彦、幹事 日下部祐基)

1) 第 1 回技術小委員会会議(平成 17 年 8 月 1 日、不動建設 会議室)

・第 4 回技術報告会(創意工夫)について

・勉強会(小飼委員: 「GCCP 工法の紹介」)

2) 第 2 回技術小委員会会議(平成 17 年 11 月 2 日、本田組(釧路) 会議室)

・第 4 回技術報告会について

・現場見学(「静的締固め砂杭工法」および「交差噴流式複合搅拌工法」)

3) 第 3 回技術小委員会会議(平成 17 年 12 月 7 日、開発工営社 会議室)

・第 4 回技術報告会について

・勉強会(神谷委員長: 「新疆(しんきょう)ウイグル紀行」)

4) 第 4 回技術報告会開催(平成 18 年 1 月 20 日、ドーコン 会議室、参加人数 154 名)

『土質基礎の創意工夫に関する技術報告会』

5) 第 4 回技術小委員会会議(平成 18 年 3 月 30 日、北海道開発土木研究所 会議室)

・17 年度総会について

・委員会の新体制について

・勉強会(小野委員: 「地盤の凍結・凍上と構造物」)

1-3 地盤情報小委員会(小委員長 石川達也、幹事 林 宏親)

1) 次期地盤情報データベースの方針に関する検討

・道内の地盤情報に関する事例収集

・次期地盤情報データベースの拡大地域の検討

・他機関の地盤情報データベース、GIS 技術、国土交通省の建設 CALS の動向等の最新情報の収集

2) 北海道地盤情報データベース Ver.2003 のフォローアップ

・地盤工学会北海道支部創立 50 周年記念行事におけるデモンストレーション

・問合せの対応

1-4 事務局活動

- 1)幹事会【メール会議】(平成 17 年 6 月)
 - ・平成 16 年度事業報告および平成 17 年度事業計画等について
 - ・新役員および小委員会委員について
- 2)平成 16 年度総会、講演会および懇親会準備(平成 17 年 6 月 13 日、ホテルポールスター札幌)
- 3)賛助会社の募集、会員名簿の整理
- 4)総会議案集のとりまとめ
- 5)事業・技術小委員会での各講演・講習会の各種案内配信および補助
- 6)土木の日パネル展での事業小委員会の活動補助
- 7)会計業務

2. 平成 18 年度事業計画

2-1 事業小委員会(小委員長 武田 覚、幹事 林 啓二)

- 1)講演会(平成 18 年 6 月 30 日、KKR ホテル札幌)
『土構造物の性能設計の動向と課題 —— 河川堤防・道路土工を中心に ——』
独立行政法人 土木研究所 技術推進本部長 三木 博史 氏
- 2)土木の日パネル展示(平成 18 年 11 月)
- 3)講習会(平成 18 年 11 月、函館市 or 稚内市)
『ジオテクノート⑭ 泥炭のお話し』
- 4)講習会(平成 18 年 11 月、札幌)
『地盤改良における近接施工例』
 - ・既設地下鉄のアンダーピニングにおける補助工法
 - ・JR直下における高圧噴射工法による斜め方向地盤改良
- 5)講習会(平成 18 年 12 月、札幌)
『鋼管杭・鋼管矢板の技術動向と新工法・新技術について』
 - ・杭基礎設計・施工便覧(道路協会)改訂内容について
 - ・鋼管杭・鋼管矢板の新工法・新技術について

2-2 技術小委員会(小委員長 田中洋行、幹事 日下部祐基)

- 1)土質基礎研究委員会ホームページの維持管理(<http://www.ejsd.net/do42/>)
 - ・土質基礎に関する Q&A フォーラムを活発化する方法を検討する。
- 2)土質基礎に関する技術検討
 - ・第 5 回土質基礎に関する技術報告会について、「コスト縮減」をテーマに開催する。
 - ・技術報告会について今後の方針を検討する。
 - ・技術力研鑽のため勉強会を行う。

2-3 地盤情報小委員会(小委員長 石川達也、幹事 福島宏文)

- 1)今後の活動方針の立案
 - ・他機関の地盤情報データベース、国土交通省の建設 CALS 等の動向
 - ・地盤情報データベースの利用方法に関する検討
- 2)北海道地盤情報データベース Ver.2003 のフォローアップ
 - ・第 41 回地盤工学研究発表会ディスカッションセッションにおける事例報告
 - ・問合せ等の対応

VII.建設マネジメント研究員会(平成13年11月設立 会員 207名)

(委員長 伊藤昌勝、副委員長 石橋良啓、白尾宣彦、幹事長 高野伸栄、事務局長 金子正夫)

1. 平成17年度事業報告

1-1 会議等の開催

1) 平成18年度通常総会の開催

日 時: 平成17年7月14日(金) 15:30~17:50 場 所: 札幌ステーションホテル

※議事終了後、高野幹事長、釧路建親会から話題提供

2) 拡大常任委員会会議(平成17年12月27日)

議題 ①平成17年度各小委員会活動の中間報告②建設産業の市民化「札幌宣言」推進の状況③中央建設業ワーキンググループについて

3) 拡大常任委員会会議(平成18年5月17日)

4) 議題 ①平成17年度各小委員会活動の報告及び18年度事業計画②幹事会機能の拡充③平成18年度総会に向けたスケジュール④18年度総会話題提供

5) 役員会(平成18年度活動方針打合せ会議)の開催(平成18年6月19日)

議題 ①役員等の変更②平成18年度総会に向けたスケジュール(案)について ③平成18年度活動方針について④幹事会機能の拡充について

6) 幹事会会議(平成18年6月21日)

議題 ①平成17年度各小委員会活動取りまとめ②平成18年度活動方針③平成18年度総会時の話題提供④委員等の異動、変更⑤幹事会機能の拡充について

1-2 各小委員会の活動

6つの小委員会において以下のテーマについて研究等を行った。

1) VE 小委員会(小委員長谷口秀之 PM・CM合同小委員会2回、WG2回)

①北海道開発局で実施した総合評価落札方式のH16年度個別事例の内容について研究、分析した。
②技術競争度合いが高い内容を有する事例から、橋梁・道路・トンネル・樋門の6事例を抽出し、事例集としてとりまとめた。

2) PFI 小委員会(高宮則夫小委員長 小委員会の開催 6回)

①PFIの「Q&A」資料作成・取りまとめ、②PFIとプロジェクトファイナの検討
③北海道におけるPFI事例についての研究、④道路におけるPFI勉強会開催
⑤リース会社からみたPFIに関する課題

3) ISO 小委員会(西堀元朗小委員長 小委員会の開催 8回)

①ISO14001について、取得している企業の取り組み状況としていない企業の考え方の2種類のアンケート調査を行った
②行政における環境への取り組み状況を、札幌市のアスベストへの取り組みを例に報告会を開催した
③労働安全衛生の2つの規格(COHSMS、OHSAS)に関して、先進的な企業の取り組み状況の報告を受けた

4) CALS/EC 小委員会(小委員長高島巧 小委員会の開催 3回)

①CALS/EC 実施における諸課題の整理・検討、②CALS/EC 導入効果の整理・検討
③フリーソフト普及拡大の可能性の取りまとめの議論を行った。

5) PM・CM 小委員会(小委員長赤代恵司 VE 合同小委員会2回)

① CM 方式による施工事例として4事例(橋梁2事例・ダム2事例)を調査し、また、発注者への技術支援1

事例を調査した。

②発注者支援に関する市町村の意見、市町村の発注事務等の実態、CM方式での役割分担の分類について、道内意見交換資料及び市町村アンケート資料から抜粋整理した。

6) AM 小委員会(小委員長福本淳 小委員会の開催3回)

①道内自治体ヒアリング調査の実施、②「荒廃する日本」アンケート調査の実施。

③市町村の意識啓発を目的とした「橋梁損傷事例集」のイメージ検討。

1-3建設産業の市民化「札幌宣言」の推進について

平成15年11月、札幌市で開催された土木学会建設マネジメント委員会主催「第21回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会」のパネルディスカッション「建設産業の市民化」において提唱した「札幌宣言」は、「建設産業が目指すべきところは、単なる受注産業から脱皮し、自律した企業市民として、市民にとって必要欠くべからざる存在に進化することである。」とし、建設産業が真に市民のための産業として進化して行く決意を宣言したものであり、建設産業の今後のひとつの方向性を打ち出したものである。平成16年度以降、北海道建青会(地方)等と連携して地方での意見交換会等を開催し「札幌宣言の推進を図ることとした。

平成17年度は「建設産業の市民化」に関する意見交換・講演会を次の3地区で開催した。(平成16年度は、室蘭、函館、稚内)

【第4回】(小樽地区) 平成17年8月31日(水)

○市民化に向けた地元の取り組み、事例等について

(小樽建設協会建世会からの報告)

【第5回】(釧路地区) 平成17年11月9日(水)

○市民化に向けた地元の取り組み、事例等について

(釧路建設親会からの報告)

【第6回】(旭川地区) 平成18年3月16日(木)

○市民化に向けた地元の取り組み、事例等について

(旭川建設業協会二世会からの報告)

1-4広報活動

建設マネジメント研究委員会ホームページ(<http://www.decnet.or.jp/kenmane/>)を随時更新。

1-5「土木の日」協賛事業

北海道土木技術会主催の土木の日パネル展2005(平成17年11月12日(土)~14日(月)、札幌地下街オーロラスクエアで開催)に協賛し当研究委員会としてパネルを展示。

全体テーマは「安全と環境を支える土木技術」で、建設マネジメント研究委員会のテーマは「より早く、安く、良いものを作るための技術」と題し6枚のパネルを展示し、研究委員会活動を紹介した。

2. 平成18年度 事業計画

本委員会は建設マネジメントの研究を通じて、北海道における建設産業並びに建設技術の進展、技術者の育成を図ることを目的として以下の事業を行う。

2-1 総会等の開催

2-2 講演会の開催

2-3 各小委員会事業計画

6つの小委員会において所期のテーマに基づき以下の研究を行う。

1) VE 小委員会

品確法施行以降、入札・契約に関する状況が大きく変革してきているため、新しい総合評価方式(H18

年4月拡充)について、受・発注者にアンケート調査を実施し、入札・契約までの同方式の課題、問題点、改善すべき点等(評価内容・配点・適応工事の種別・情報開示の内容等)を調査研究する。

2) PFI 小委員会

先行事例の見学会・長期包括委託、指定管理制度・市場化テストなどの実施状況、民間発意型PFIケースタディの可能性の以降について参加者による意見交換を中心に進める。

3) ISO 小委員会

- ①ISO19001に活用工事状況を把握(北海道開発局担当分を中心)。
- ②環境先進企業の現地調査(北海道トヨタ自動車5月18日実施)。
- ③公共工事における環境配慮のあり方を発注者と受注者の両面から行う。
- ④環境を含む建設企業の地域貢献について実態調査を進める。

4) CALS/EC 小委員会

- ①電子納品未導入の自治体に対するヒアリング・アンケートを実施し諸課題を把握する。
- ②電子納品導入済みの自治体にヒアリング・アンケートを実施しCALS/EC導入の効果を把握する。
- ③フリーソフトについての検討結果をとりまとめる。

5) PM・CM 小委員会

新しい総合評価方式(H18年4月拡充)について、受・発注者にアンケート調査を実施し、受注後の現場マネジメントについて(原価管理、工程管理等)調査研究する。併せて異業種や民間事業を含め、現場マネジメントの事例調査を行う。

6) AM(アセットマネジメント)小委員会

自治体ヒアリング結果等過年度調査をふまえ、道内市町村でのアセットマネジメント導入方法の検討と導入に向けた普及啓発を目的に①橋梁損傷事例集の作成②道内市町村への啓発方法の検討を行う。

2-4 建設産業の市民化「札幌宣言」の推進

平成17年度に引き続き、建設産業の市民化「札幌宣言」の推進を図るため、北海道建青会(地方)等と連携して地方での意見交換会等を開催する。

2-5 広報活動

- 1)ホームページの充実と各小委員会の活動報告を掲載する。
- 2)各小委員会の成果・幹事会の活動の成果を賛助会員にとりまとめ配布する。

2-6 土木の日協賛事業

北海道土木技術会の「土木の日パネル展」に協賛し、当委員会として参画する。

2-7 幹事会機能の拡充

- 1)講演会、建設産業の市民化の企画・運営
幹事会に担当者を定め担当者が中心となり企画・運営を行い建設産業への理解と信頼を深める。
- 2)小委員会の横断的研究テーマへの取り組み

小委員会を横断して取り組む研究テーマについて、幹事会に担当者を定め、メンバーを選定し、研究を進める。

2-8 その他

会員相互の交流を図る。

各研究委員会のトピックス

I. 鋼道路橋委員会

17年度の活動報告としまして、平成18年2月21日(火)に鋼道路橋委員会・講習講演小委員会主催で開催された鋼橋に関する技術講演会についてご紹介します。

技術講演は、北海道大学工学部の林川教授を始め、(株)日本橋梁建設協会のご協力のもと、鋼橋に関する5項目の最新技術の紹介がありました。以下に各講演の概要をご報告します。

1. レベル2地震動による落橋防止ケーブルの非線形強度について

レベル2地震動による落橋防止ケーブルの非線形強度についての貴重な最新研究結果が、北海道大学工学部 林川教授よりご紹介がありました。

2. 複合ラーメン橋の今後の展望

複合ラーメン橋は、鋼少数主桁とRC橋脚を剛結した合理的な橋梁形式で、従来形式と比べ長支間化、耐震性の向上が可能です。

特に山岳部では、張り出し架設工法を行うことにより、地形条件に左右されない架設(ベント設備不要)が可能となり、工期・品質・経済性に優れた橋梁形式といえます。適用拡大を図るため、さらなる長支間化に向けて研究開発を進めております。これらの複合ラーメン橋の具体的な事例紹介が報告されました。

3. 合成床版の最近の動向 一合成床版の施工・維持管理一

ここ10年の鋼橋技術で大きく進歩したのが高耐久性の床版技術です。高耐久性床版が開発されることにより、少数I桁橋や開断面箱桁など新しい合理化構造が生まれています。

高耐久性床版のなかでも鋼・コンクリート合成床版は、安全性や施工性にも優れていることから、各機関で広く採用されています。この採用例が急増している合成床版の最近の施工事例が紹介され、施工管理と維持管理について報告がありました。

4. コンクリートを充填した長大アーチ橋の新技術 一新西海橋工事報告

新西海橋は、現在、平成18年3月5日の開通を目指して施工を行っています。本橋は、新設道路橋としては国内で初めてのコンクリート充填鋼管(CFT;Concrete Filled Tube)アーチ橋で、充填作業の実施に先立って、様々な検討、試験を行いました。

また、橋体の架設に際しては、国内最大規模のケーブルクレーン設備を使用しています。これらの内容を含め、本橋の製作・架設状況につきましてご紹介がありました。

5. 「新しい鋼橋の誕生Ⅱ」改訂版の概要

平成15年5月に発行致しました「新しい鋼橋の誕生Ⅱ」について、(株)日本橋梁建設協会より改訂版が発行されました。

改訂内容は、①複合ラーメン橋の追加、②少数I桁橋の適用支間拡大、③概算工事費を最大支間と総幅員橋面積当たり単価の関係でグラフ化の3点となりました。これらの内容のご報告がありました。



林川先生の講演状況



講演状況(1)



講演状況(2)



講演状況(3)

Ⅱ. コンクリート研究委員会

コンクリート構造物の維持管理

手引き(案)の講習会開催される

平成 18 年 4 月 26 日, コンクリート維持管理小委員会主催の「北海道におけるコンクリート構造物維持管理の手引き(案)」に関する講習会が, 札幌コンベンションセンターにて開催されました.

講習会は 155 名の参加を得て, 過去 5 年間の活動成果である「手引き(案)」の報告を各 WG 座長から行い, 小委員会関係者 17 社による維持管理技術の展示説明会を併設して開催しました. また, 講習会・展示説明会の後, 展示説明会関係 7 社による点検機器, 診断, 補修技術等の維持管理技術に関する発表会を行いました.

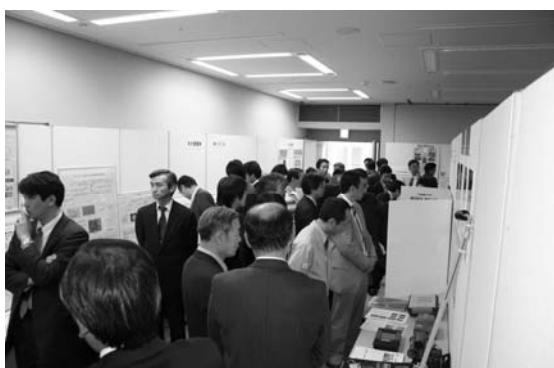
尚, 本小委員会は平成 18 年度以降, 北海道のコンクリート構造物を効率的に維持管理し, 長寿命化を図ることを目的として, コンクリート研究委員会において常設の小委員会として活動を継続します.



会場風景



講習会状況



展示会状況



発表会状況

「北海道におけるコンクリート構造物維持管理の手引き(案)」に関する講習会

日 時:平成 18 年 4 月 26 日(水)13 時 30 分~17 時

場 所:札幌コンベンションセンター 107-108 会議室

住 所:札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1 TEL:011-817-1010

主 催:北海道士木技術会コンクリート研究委員会 コンクリート維持管理小委員会

後 援:土木学会北海道支部, JCI北海道支部

参加数:155 名

プログラム :

13:30—13:35 開会挨拶 コンクリート維持管理小委員会委員長 谷村 昌史

13:35—15:00 コンクリート維持管理小委員会活動報告(手引き(案)講習)

全体調整 WG 座長 田口 史雄

点検・試験 WG 座長 西川 忠

コンクリート劣化評価 WG 座長 嶋田 久俊

補修・補強 WG 座長 渡辺 忠朋

15:00—15:30 休憩および展示説明会(小委員会会員による維持管理技術の展示 17 社)

15:30—17:00 維持管理技術に関する発表会

点検機器関係 日東建設(株) 久保 元樹

(株)コンステック 西川 忠

(株)ドーコン 大山 高輝

診断関係 日本工営(株) 松山 公年

補修・補強関係 (独)土木研究所寒地土木研究所 遠藤 裕丈

ドーピー建設工業(株) 市川 聖芳

北武コンサルタント(株)

[協力:鉄建建設(株)] 松岡 茂

17:00 閉会

III. 補装研究委員会

昭和55年に設立された舗装研究委員会は、平成18年で25周年を迎えた。委員会では、設立25周年記念事業の一つとして、アメリカのフロリダで3月13, 14日に開催されたアスファルト舗装会議に参加した。この会議は年次会議で、今年は、アスファルトにおける環境革新をサブテーマに、四つのセッションと舗装機械展示会、舗装実演会が行われた。



写真-1 会場入り口



写真-2 展示会場



写真-3 実演会場

1. 会議

セッション1:排水性舗装(Porous Pavement)では、4編の論文が発表された。

セッション2:低騒音アスファルト舗装(Quiet Asphalt Pavement)では、6編の論文が発表された。

セッション3:再生舗装(Recycling)では、6編の論文が発表された。

セッション4:中温化アスファルト混合物(Warm Mix Asphalt)では、8編の論文が発表された。

何れの会議も経験主体に纏められたもので、舗装の実演を見ても感じたものであるが現実的なものを発表している。来年はアトランタで3月19～22日に開催される。

2. 展示会

今年のテーマが環境革新なので環境対策を目的とした舗装機械が出展されていた。今回の展示では大型の機械も展示されていたが、舗装補修に関連した小型の機械が目に付いた。

日本からも1社出展しており、この会社のローラのメカニズムは、アメリカの業者も関心を持って聞いていた。機械開発の方向は、デザインや操作性に重点が置かれているようで、機械はスマートになっている。



写真-4 品質管理車



写真-5 日本出展ローラ



写真-6 切削機



写真-7 舗設機



写真-8 小型舗装機器



写真-9 補修機器

3. 舗装実演会

実演会は広い駐車場の一部に見学者用のスタンドを造り、大型画面を設置して、七つのイベントが行われた。

イベントは、切削機、清掃車、MTV、舗設機、ローラ、品質管理を各社の組み合わせ行われ、パッチングの実演は、小型の混合物運搬車から混合物を取り出し、パッチングを行っていた。品質管理には電磁波や放射線密度測定器が披露され、温度管理には赤外温度計が、仕上がり管理には各種の機器が使用されていた。



写真-10 説明職員



写真-11 見学者席



写真-12 オーバーレイ



写真-13 パッチング



写真-14 密度測定

4. 参加雰感

オーランドは、コンベンションの町で、ディズニーランドやケネディ宇宙センターあり、施設や会議場の案内が分かりやすく表示されている。空港に着いてレンタカーを借りたが、その案内は写真-15のように分かりやすく表示されており、空港からホテルまで夜であったが迷うことなく到着した。

町で出会った見たこともないものを紹介すると、アウトレットモールが2軒あり、入ってみると閑散としており、空き店舗には、カーテンで店があるように見せている。ディズニーランドにはサンフランシスコの町並みがあり、家を逆さにした奇抜なレストランもあった。逆進防止装置などは、料金の不払いを防止するために導入しては思った。



写真-15 レンタカー案内板



写真-16 空き店舗



写真-17 トリック道路



写真-18 レストラン



写真-19 改造車



写真-20 逆進防止装置

IV. トンネル研究委員会

1. トンネル技術研究発表会

トンネル研究委員会が昨年度主催した、「2006 トンネル技術研究発表会」の紹介をいたします。昨年度は、トンネル研究委員会発足 20 周年にあたり、記念開催したことから特別講演を例年より多く2題発表していただきました。首都大学東京の西村教授からは、「事前調査・設計の現状と留意点」、「材料・施工法の合理化」および「新潟中越地震によるトンネル被害」の講演があり、いずれもトンネル現場に携わる者にとって興味深い話題であり、参加者は熱心に聴講し、講演後は活発な意見交換がありました。特別講演のもう1題は、長安大学公路学院の Jianxun Chen 助教授から、中国におけるトンネル建設の現状を、具体的な事業内容も含め講演していただきました。普段はあまり聞くことのない中国の建設事情であり、参加者にとって新鮮な講演であったと思われます。

一般論文については、現場での諸課題に関するテーマを中心に7編の発表がありました。いずれも、課題に対して苦労した点や解決方法をわかりやすく発表していただき、他現場への適用にあたって参考になるものばかりでした。

【特別講演 2題】

「トンネル技術の現状と課題」

首都大学東京 都市環境学部 都市基盤環境コース 教授 西村 和夫

「中国における道路トンネルについて」

長安大学公路学院 助教授 Jianxun Chen

【研究発表 7編】

「ワッカケトンネルにおけるバルーン養生について」

西松・伊藤・石山JV 小倉 仁志

「長大インバート桟橋を使用したトンネルの合理化施工」

—3スパン移動桟橋によるインバート施工—

佐藤工業 株式会社 本社 土木事業部 京免 繼彦

「脆弱な蛇紋岩区間のトンネル掘削について」

—北海道横断自動車道東占冠トンネル工事における取組み—

大成・奥村JV 特定建設工事共同企業体 内田 渉

「連続ベルトコンベア使用時における伸縮風管式大型集塵機の有効性について」

鹿島・地崎・宮坂特定建設工事共同企業体 花田 真州

「トンネル水文調査データの一元管理と可視化技術」

—トンネル渴水影響検討—

応用地質 株式会社 技術本部 佐々木達哉

「3次元孔曲り計測システムの開発とトンネル施工への適用事例」

株式会社 エーティック 企画部 日向 洋一

「長尺GFRP管切羽補強工法の作用効果と設計法に関する研究」

株式会社 熊谷組 土木事業本部 御手洗良夫

2. 20周年記念事業

研究発表会の後、歴代の役員を招待して「20周年祝賀会」を開催いたしました。現委員を含む参加者は 115 名にもなり、当時を懐かしむ話題で歓談されていました。また、20年の足跡を記した「20年のあゆみ 1986 年～2006 年」を編集・発行し、全委員に配布しました。

V. 道路研究委員会

昨年度、道路研究委員会では5回の講演会を開催しました。その中から、平成17年12月に開催した「ワーストワン返上の理由」と題して開催した講演会の様子を紹介します。

1. 開催の概要

この講演会は、北海道土木技術会道路研究委員会の主催、独立行政法人北海道開発土木研究所(寒地道路連続セミナー)の共催により、平成17年12月12日に開催したものです。交通安全に関する6名の方にご講演頂き、89名の聴講がありました。



写真1 講演会の開催状況

2. 講演の概要

(1)『交通事故死者数が7358人に減少した要因について』

財団法人交通事故総合分析センター 萩田 賢司 様

- ・交通事故による死者数が近年のピークである平成4年の11,451人から、平成16年には7,358人にまで減少。
- ・状態別死者数をみても、自動車、二輪車、自転車、歩行者のすべての状態で交通事故死者数が減少。
- ・このような背景のもと、人・車両・道路・緊急医療等の観点(右図参照)から、過去12年間の交通事故死者数の減少要因を分析。

(2)『北海道の交通事故死者数の現状について』

北海道警察交通部交通企画課 調査官 千葉 貴寿 様

- ・交通事故死者数は、平成7年を100とすると平成16年は61.2まで減少。死者多数月と少数月の差が縮小、深夜早朝の死者が半減。
- ・事故類型で見ると、車両単独が大幅に減少、正面衝突や人対車両による死者も減少。法令違反では、最高速度違反が大幅に減少
- ・25歳未満の若年運転者による事故が大幅に減少。

(3)『北海道の交通事故死者数の減少要因について』

北海道大学大学院工学研究科 助教授 萩原 亨 様

- ・第二次ベビーブーム世代の事故件数と死者数が多い。階級別年齢人口を考慮してもそれ以上に多い。
- ・第二次ベビーブーム以降の世代は、事故件数・死者数とも単調減少傾向を示し続けている。

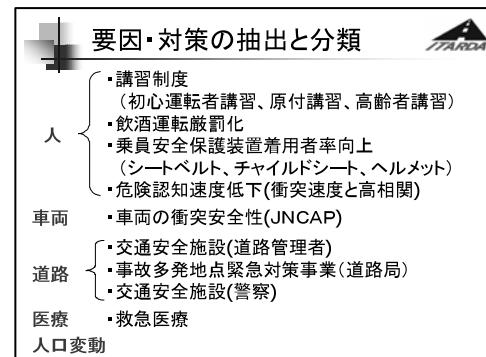


図1 萩田様講演資料より

最近の若年者(16-19)の事故件数減少の理由

- ・事故率が大きく低下(×)
- 10年で半減を仮定することは、難しい。
- ・走行台キロの減少!
- 自動車を利用回数の減少
- 自動車をとっても短い距離に使う
- 昨年度のパーソントリップ調査、自動車調査の結果と一致。
- ただし、調査の必要あり。
- ・車から何に向かったのか?

道路研究委員会、事故分析2

18

図2 萩原様講演資料より

- ・事故件数の多い世代は、年代が高くなつても事故件数が多い。逆に、少ない世代は、年代が高くなつても少ない。
- ・ベビーブームのような特徴のある世代が出現しない限り、事故件数、死亡事故件数とも減少傾向が継続。若年層の変動と推移比を見ると、2010年までの間に事故件数の減少を期待できる。

(4)『一般国道における交通事故対策について』

北海道開発局道路維持課 課長補佐 柴田 哲史 様

- ・事故発生の危険性が高い箇所(あんしん歩行エリア、事故危険箇所、死傷事故率比2.0以上箇所)に対して重点的に対策を講じている。
- ・この他、北海道の事故特性に応じた対策(中央分離帯やランブルストリップスの整備を推進)。
- ・北海道警察とのカメラ画像情報の共有による渋滞対策、街頭啓発活動を共同実施。

(5)『死者数減少要因調査とランブルストリップスの効果について』

独立行政法人土木研究所 寒地土木研究所寒地交通チーム 上席研究員 浅野 基樹 様

- ・死者数の減少の背景として、若年層の死者数減少が大きく貢献。死者数減少要因には、道路交通法等の改正、自動車の安全性能の向上、道路整備の伸展、取り締まりや啓蒙等が考えられる。
- ・平成14～15年度にランブルストリップスを設置した区間(総延長約39km)では、設置前2年間と設置後2年間を比較した結果、正面衝突による死者数が20人から6人(削減率70%)、正面衝突の事故件数が42件から20件(削減率約50%)に減少。
- ・今後の交通事故対策として、取り締まりや啓蒙、自動車の安全性向上の他、ランブルストリップスなどの事故対策、事故率や致死率の低い規格の高い道路の整備が求められる。

(6)『保険実務からみた死亡事故』

東京海上日動火災保険(株)北海道損害サービス部課長 飯田 芳久 様

- ・自動車の性能が向上し安全性が高まつたので、事故が発生しても死亡にまで至らないのではないか。
- ・シートベルト着用が一般の人の常識として定着してきた(この結果、車が激突しても車外に飛び出してしまう事故が減少しているのではないか)。
- ・バイクに乗る若者が減少している。
- ・飲酒運転による重大事故は減少しているが地域によってはあいかわらず発生している。
- ・企業・学校の飲酒運転に対する問題意識は高くなっている。
- ・友人と遊ぶ時のバリエーションが増えており、目的のないドライブは減少している。
- ・いわゆる生活リスクに敏感になっている(飲酒機会がある時には車に乗らない)。

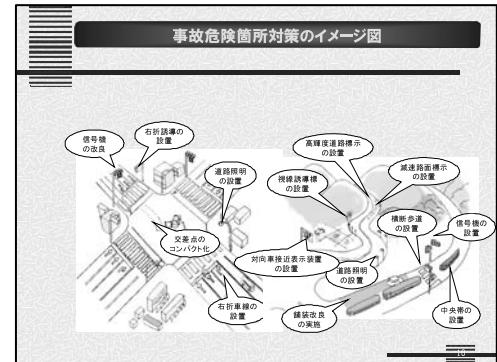


図3 柴田様講演資料より

2002(平成14)～2003(平成15)年に施工した箇所における正面衝突削減効果

一般国道4カ所、延べ延長39.284km			
正面衝突	事前2年間	事後2年間	減少数 減少率
事故件数	42	20	-22 52.4
死者数	20	6	-14 70.0
重傷者数	24	19	-5 20.8
軽傷者数	89	55	-34 38.2
冬季型事故件数	16	6	-10 62.5

2002(平成14)年～2003(平成15)年の整備区間は、24箇所、総延長約39kmであった。これらの各箇所の整備前後2年間の正面衝突事故による事故件数は、42件から20件(-22件)に減少し、減少率は、52.4%であった。死者数は、20人から6人(-14人)に減少し、減少率は、70%となり、特に死者数の減少に大きく貢献した。

※ランブルストリップス施工箇所以外の死者数は、ほとんど減少していない。
2001(H13)～2002(H14) 121人、 2003(H15)～2004(H16) 113人
減少数 8人、減少率 6.6%

図4 浅野様講演資料より

VII. 土質基礎研究委員会

土質基礎の技術に関する「創意工夫」技術報告会の開催

最近の土木事業には、コスト縮減や周辺環境への配慮、さらには利用者や作業員の安全確保などがこれまで以上に求められています。当研究委員会では、これらの問題やその解決策を見出すための情報交換や資料収集の場を提供する目的で、土質基礎の技術に関する「創意工夫」をテーマに第4回技術報告会を開催しました。本報告会では各社・各機関で開発された技術や施工例など下記の8編の報告がありました。ほとんどの発表が、実際の施工事例や観測事例であったため内容をイメージしやすく、参加者の経験と照らした活発な議論がなされました。また、新工法開発に至る失敗例を紹介した発表もあり、参加者は熱心に聞き入っていました。

「飛散を防止した固化材散布機の開発」

北海道開発土木研究所

佐藤 厚子

「ロータリー式攪拌工法の開発と施工事例」

小野田ケミコ(株)

松岡 大介

「パワーブレンダー工法(トレンチャー式浅層・中層混合処理工法)」

日特建設(株)

有光 重典

「泥炭性軟弱地盤における大深度地盤改良工のJR近接施工－JACSMAN工法の適用－」

本田組(株)

竹越 公一

「幾春別川新水路締切築堤工事における土質基礎に関する工事報告」

タカハタ・杉原・赤川JV

鈴木 寿紀

「既設の橋梁桁下におけるジャイロプレス工法の施工」

地崎工業(株)

外山 聰朗

「U字管内蔵型PCエネルギーパイレスシステムの開発」

北海道大学

濱田 靖弘

「GNSSを用いた地滑り連続観測のフィールド実験について」

北海道開発土木研究所

伊藤 憲章



なお、第5回技術報告会は、「コスト縮減」をテーマに下記のとおり開催する予定です。多くの方のご参加をお願いします。

・開催日：平成19年1月25日(木)

・場 所：北海道大学学術交流会館

VII. 建設マネジメント研究委員会

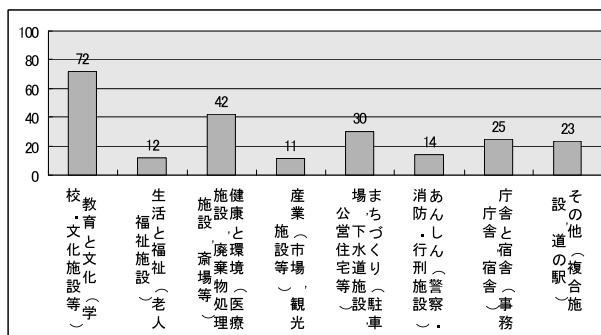
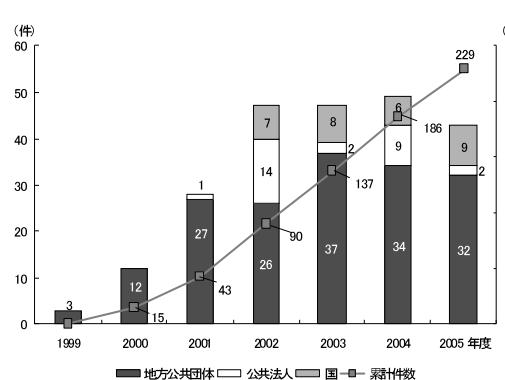
PFI小委員会のご紹介

1. 活動目的

PFI法の施行(1999年)から6年間、全国において地方財政の緊縮に伴い、社会資本の設計・建設・維持管理・運営などの多様な発注方式としてPFI/PPPについての関心が高まり、実施方針が策定・公表されたPFI事業は累計件数で229件と増加傾向にあります。

一方、道内でのPFI実施実績は、平成18年7月現在8件にとどまっています。当PFI委員会は、高官委員長以下23名が活動し、実績や目的は以下のとおりです。

- ① 北海道のPFI/PPPの導入動向に関する調査・研究
- ② PFI/PPPについて知見を深めるための見学会
- ③ 会員相互及び関連他業種との意見交換
- ④ 道内での導入促進にあたっての課題や提案・啓蒙普及活動
- ⑤ インフラ系土木案件の発掘やケーススタディ、民間発案などの可能性検討

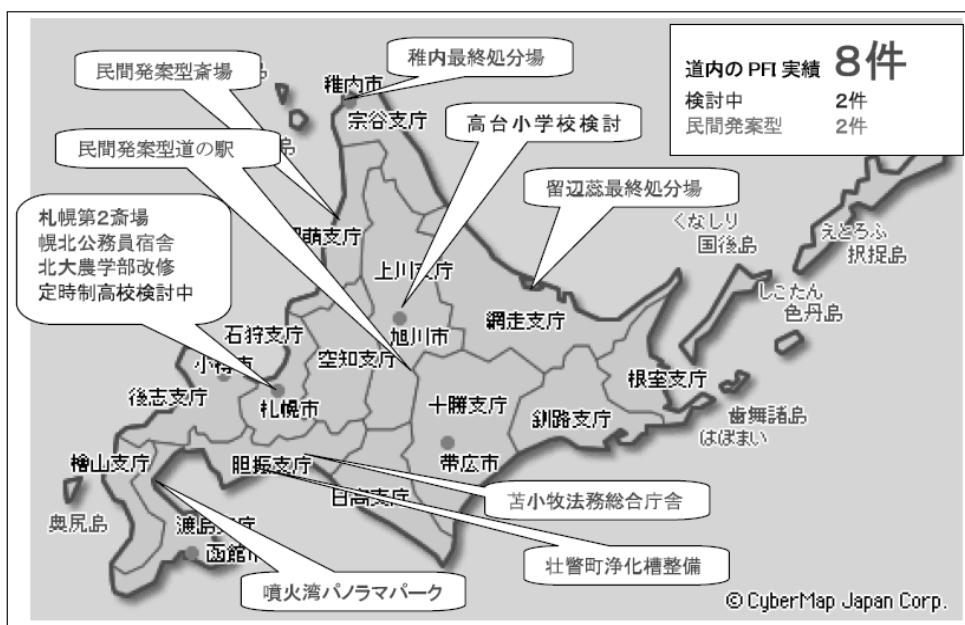


全国のPFI件数動向

全国PFI案件の事業区分

出典:内閣府のPFIホームページ

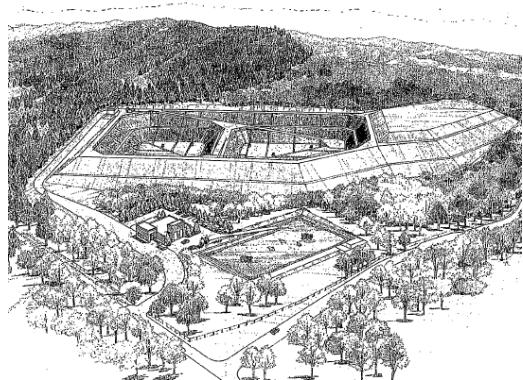
2. 北海道におけるPFI等の導入・検討動向



【北海道におけるPFI事業基礎データ】

事業名	事業・施設 内容	事業 主体	進捗状況	応 募	落札グループ	プロジェクト ファイナンス	期間	入札 金額
留辺蘿町外 2町一般廃 棄物最終処 分場整備及 び運営事業	一般廃棄物最 終処分場の設 計・建設・維持 管理・運営	留辺蘿, 訓子府, 置戸町	H14/2 業者選定 H14/6 事業契約 H14/8 工事着工 H16/3 工事竣工 H16/4 供用開始 H33/3 事業終了	8	大成建設 G(伊藤組 土建、松谷産業、荏 原製作所) (協力会社:ドーコ ン)	北見信金, 信金中央金 庫他	17年	1,450 百万円
(仮称)札幌 市第2斎場 整備運営事 業	斎場の設計・ 建設・維持・維 持管理・運営・ 公金徴収業務	札幌市	H14/11 事業選定 H15/3 事業契約 H15/4 工事着工 H18/3 工事竣工 H18/4 供用開始 H38/3 事業終了	5	東亜建設工業 G、 (磐田建設、炉研、 北菱産業、札幌グラ ンドホテルサービス、 北海道JR商事、芙蓉 総合リース)	道銀、札銀、 北洋銀、み ずほコーポレー ト、政策投資 銀	20年	18,548 百万円
道立噴火湾 パノラマパー クビジターセ ンター等整 備運営事業	ビジターセンタ ー、駐車場、オ ートキャンプ場 の設計・建設・ 維持管理・運 営	北海道	H16/2 事業選定 H16/7 事業契約 H16/7 工事着工 H18/3 工事竣工 H18/4 供用開始 H43/3 事業終了	3	清水建設 G(㈱東急 コミュニティー、㈱小 学館プロダクツ、宮 坂建設工業㈱)	北洋銀行	25年	3,055 百万円
苦小牧法務 総合合同庁 舎整備等事 業	庁舎の設計・ 建設・維持管 理	法務省、 国土交 通省	H16/10 事業選定 H16/12 事業契約 H17/1 工事着工 H18/9 工事竣工 H18/10 供用開始 H31/3 事業終了	6	岩倉組 G(伊藤組土 建、サンテック、朝日 工芸社、日本管財、 きんでん北海道支店	道銀他	15年	1,280 百万円
公務員宿舎 幌北住宅整 備事業	既存宿舎解体 撤去、新規宿 舎の設計・建 設・維持管理	財務省	H16/10 事業選定 H16/11 事業契約 H16/12 工事着工 H19/1 工事竣工 H19/2 供用開始 H26/3 事業終了	8	清水建設 G(日建設 計、北海道日建、第 一建築サービス)	—	10年	5,412 百万円
北大環境資 源バイオサイエ ンス研究棟改 修施設整備 等事業	施設の設計・ 改修・維持管 理、警備、清 掃、外溝管理	国立大 学法人 北大	H16/12 事業選定 H17/3 事業契約 H17/4 工事着工 H20/9 工事竣工 H18/5 供用開始 H31/3 事業終了	1	大成建設 G(三菱商 事、三菱地所設計、 伊藤組土建、北海 道電力、日本管財、 大成サービス)	北洋銀行	15年	6,196 百万円
稚内廃棄物 最終処分場 整備運営事 業	施設の設計・ 建設・維持管 理・運営・最終 覆土	稚内市	H16/11 事業選定 H17/2 事業契約 H17/3 工事着工 H19/9 工事竣工 H19/10 供用開始 H31/9 事業終了	9	大林 G(開発工營 社、石塚建設興業、 環境衛生工業、	北洋銀行	15年	2,675 百万円
壮瞥町管理 型浄化槽整 備事業に関する実施方針	浄化槽及び付帯施設の建設・維持管理・法廷検査実施	壮瞥町	H16/4 事業契約 H14/8 工事着工 H16/3 工事竣工 H16/3 供用開始 H33/3 事業終了	2	1位 高橋衛生・高 橋清掃 G2位 栗林 商会 G		10年	234 百万円

各種資料より作成



留辺蘿町外2町一般廃棄物最終処分場整備及び運営事業



苫小牧法務総合合同庁舎整備等事業



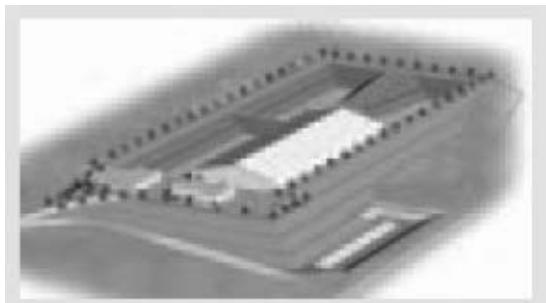
(仮称) 札幌市第2斎場整備運営事業



公務員宿舎幌北住宅整備事業



北大環境資源バイオサイエンス研究棟改修施設整備



稚内廃棄物最終処分場整備運営事業



道立噴火湾パノラマパークビジターセンター等整備運営事業

北海道士木技術会 歴代会長・副会長・幹事長名簿

昭和 29~32 年度	会長 齋藤 静脩		
昭和 33~38 年度	会長 真井 耕象	副会長 小崎 弘郎	幹事長 古谷 浩三
昭和 39~48 年度	会長 高橋敏五郎	副会長 伊福部宗夫、古谷 浩三	幹事長 河野 文弘
昭和 49~52 年度	会長 横道 英雄	副会長 古谷 浩三、林 正道	幹事長 河野 文弘
昭和 53~59 年度	会長 町田 利武	副会長 尾崎 晃、長繩 高雄	幹事長 高橋 穀
昭和 60~61 年度	会長 尾崎 晃	副会長 長繩 高雄、渡辺 健	幹事長 久保 宏
昭和 62~63 年度	会長 尾崎 晃	副会長 長繩 高雄、渡辺 健	幹事長 太田 利隆
平成元年度	会長 長繩 高雄	副会長 菅原 照雄、久保 宏	幹事長 森 康夫
平成2年度	会長 長繩 高雄	副会長 菅原 照雄、高橋 陽一	幹事長 森 康夫
平成3年度	会長 菅原 照雄	副会長 渡辺 健、西本 藤彦	幹事長 森 康夫
平成4年度	会長 菅原 照雄	副会長 渡辺 健、太田 利隆	幹事長 森 康夫
平成5年度	会長 渡辺 健	副会長 渡辺 昇、清崎 晶雄	幹事長 能登 繁幸
平成6年度	会長 渡辺 健	副会長 渡辺 昇、小山田欣裕	幹事長 能登 繁幸
平成7年度	会長 渡辺 昇	副会長 橋本 譲英、松尾 徹郎	幹事長 能登 繁幸
平成8年度	会長 渡辺 昇	副会長 青木 正夫、松尾 徹郎	幹事長 能登 繁幸
平成9年度	会長 松尾 徹郎	副会長 星 清、藤田 嘉夫	幹事長 堀 孝司
平成10年度	会長 松尾 徹郎	副会長 斎藤 智徳、藤田 嘉夫	幹事長 石本 敬志
平成11年度	会長 加来 照俊	副会長 能登 繁幸、高橋 陽一	幹事長 高木 英貴
平成12年度	会長 加来 照俊	副会長 高橋 陽一、阿部 芳昭	幹事長 高木 英貴
平成13年度	会長 高橋 陽一	副会長 斎藤 智徳、土岐 祥介	幹事長 鈴木 哲也
平成14年度	会長 高橋 陽一	副会長 斎藤 智徳、土岐 祥介	幹事長 鈴木 哲也
平成15年度	会長 土岐祥介	副会長 斎藤 智徳、西本 藤彦	幹事長 西川 純一
平成16年度	会長 土岐祥介	副会長 斎藤 智徳、西本 藤彦	幹事長 西川 純一
平成17年度	会長 西本 藤彦	副会長 斎藤 智徳、角田與史雄	幹事長 西川 純一
平成18年度	会長 西本 藤彦	副会長 角田與史雄、高木 秀貴	幹事長 西川 純一

北海道土木技術会規約

昭和 33 年 9 月 17 日 施 行
昭和 40 年 3 月 1 日 一部改正
昭和 61 年 10 月 27 日 改 正
平成 7 年 7 月 5 日 一部改正

第 1 章 総 則

- 第1条 本会は北海道土木技術会と称し札幌市に事務局をおく。
- 第2条 本会は北海道における土木事業ならびに土木技術の進展を図ることを目的とし、次の事業を行う。
- 1 重要な問題についての共同調査、研究、審議
 - 2 講演会等の開催による技術の向上および普及
 - 3 その他本会の目的を達成するために必要なこと
- 第3条 本会の会員は原則として、北海道在住で本会の趣旨に賛同した者とする。

第 2 章 役員および会議

- 第4条 本会に次の役員をおく。
- 1 会長 1名 副会長 2名 幹事長 1名 幹事 若干名
研究委員会の委員長
 - 2 役員の任期は、1年とし再任は妨げない。
- 第5条 会長は本会を代表し会務を総括する。副会長は会長を補佐しその任務を代行する。
幹事長および幹事は会長の指示を受けて会務を処理する。
- 第6条 幹事長、幹事および事務局主事は会長が委嘱する。
- 第7条 本会の運営に関し、助言を求めるため会長の委嘱により顧問をおくことができる。
- 第8条 役員会は年1回以上開き会長が招集する。
- 第9条 役員会は次の事項を議決する。
- 1 事業および決算
 - 2 会長、副会長の選出
 - 3 規約の変更
 - 4 研究委員会の設置または廃止
 - 5 その他本会に関する重要な事項
- 第 10 条 幹事会は幹事長および幹事によって構成し、幹事長が必要と認めたとき隨時これを開く。

第 3 章 研究委員会

- 第 11 条 本会には第2条の目的を達成するため研究委員会をおく。
- 第 12 条 研究委員会は、3名以上の会員の要請があるとき役員会の審議を経て設ける。
- 第 13 条 研究委員会の委員長は、会長が委嘱するものとし、その運営は別に定めるところによる。
- 第 14 条 会員は、研究委員長の委嘱を受けて委員会活動に参加することができる。

第 4 章 会則および付則

- 第 15 条 本会の事業年度は、毎年4月1日から3月31日までとする。
- 第 16 条 本会の運営に要する経費は、賛助金、その他をもってあてる。
- 第 17 条 この規約は平成7年7月5日から実施する。